

「安全で信頼のある食品を提供するために」

日時：平成 26 年 7 月 3 日(木)13:10~17:30(開場:12時30分)

場所：南青山会館 新館2階 大会議室

(〒107-0062 東京都港区南青山 5-7-10)

参加費：会員 無料 会員外:1,000 円

共催：(独)農研機構 食品総合研究所

プログラム

挨拶 13:10~13:15 フード・フォーラム・つくば幹事長 江木 衷氏
(独)農研機構 食品総合研究所長 大谷 敏郎氏

講演1. 13:15~14:15

『フードチェーンを大切に - 食中毒を繰り返さないために -』

一色 賢司氏 (北海道大学名誉教授、日本食品分析センター学術顧問、
日本食品化学学会理事長)

北海道の事例を紹介します。食中毒は皆で努力すれば減らすことができますが、食べる人への思いやりを忘れると増えてしまいます。道徳なき商業の虜になれば、さらに増えてしまいます。

講演2. 14:15~15:15

『乳酸菌バクテリオシン:食品への応用、そして拡大する利用分野』

園元 謙二氏(九州大学大学院 農学研究院 生命機能科学部門・教授)

乳酸菌バクテリオシンの特徴を活かした安全な微生物制御は食品の保存に利用されている。その特徴と食品への応用を紹介すると共に、さらに高度な微生物制御をめざし、いくつかの課題を克服するための取り組みや他分野への利用についても述べたい。

休憩 15:15~15:30

講演3. 15:30~16:30

『放射線照射と非加熱殺菌』

等々力 節子氏((独)農研機構 食品総合研究所 食品安全研究領域
放射線食品科学ユニット長)

海外では、香辛料の非加熱殺菌や、農産物の植物検疫のため、放射線照射処理の実用化が進展している。本講演では、食品照射の海外事情と国内で提供が禁止された牛生レバー殺菌の研究について紹介する。

講演4. 16:30~17:30

『リスクの社会心理学 -食の信頼を目指して-』

中谷内 一也氏(同志社大学 心理学部・教授)

消費者が安心して食を楽しむかどうかは、生産者や販売者などへの信頼次第と言える。では、リスクを扱う責任者への信頼は何によって決まるのか。本講演では、この問題にアプローチしてきた社会心理学研究の研究成果を紹介する。

交流会 18:00~19:30 南青山会館 1階 中会議室 (交流会費:3,000 円)